

地域再生計画

1 地域再生計画の名称

南あわじ市地方創生プロジェクト

2 地域再生計画の作成主体の名称

兵庫県南あわじ市

3 地域再生計画の区域

兵庫県南あわじ市の全域

4 地域再生計画の目標

本市の総人口を見ると、1980年の57,744人から以降15年間は、緩やかな減少となっているが、1995年以降は大きく減少しており、2019年12月末日現在では46,978人となっている。国立社会保障・人口問題研究所の推計によると、2045年には約29,000人と2015年比で約62%となる見込みである。

15歳未満の年少人口、15～64歳の生産年齢人口は年々減少している一方で、65歳以上の老年人口（高齢者）は年々増加しており、2015年では、3人に1人が65歳以上という状況である。

老年人口比率の増加に伴う地域コミュニティの担い手の高齢化や将来の担い手となるべき若い世代の市外への転出、また、核家族世帯が増えるなか、近所づきあいが少なくなり、地域の集まりにも参加しない世帯の増加が懸念されている。

このままの状況が続くと、将来的にコミュニティを維持できないおそれがあり、地域コミュニティを将来にわたって持続的に維持していくために、コミュニティの核となる担い手が世代交代しながら、地域の人々が互いに支え合っていくことが求められる。

また、進学や就職を期に若者世代が都市部へ転出し、その後市内に戻り、定住するという状況が続いていたが、近年市内に戻る若者の割合が減少し、結果として若者世代の人口減少に歯止めがかからない状況にある。また一方で、農業、漁業などの一次産業や地場産業の従事者の高齢化により、後継者不足が顕在化して

いる。

このような若者世代の減少は、本市の産業衰退にも直結するおそれがあり、若者が本市に定住し、一次産業や地場産業を引き継いでいくために、若者世代の転出の抑制はもちろんのこと、すでに市外に転出した若者世代のUターンの促進や都市部からのJ・Iターンを推進することが求められている。

これらの課題に対応し、少子化・人口減少社会を乗り越え、将来にわたって持続可能なまちづくりを実現するには、住民主体のまちづくりの推進による地域コミュニティの担い手確保や一次産業や地場産業の活性化による雇用の創出、観光・交流人口の拡大、子育て・教育環境の整備など、引き続き人口・経済・地域社会の課題に一体的に取り組むことが重要であることから、次の4つの基本目標を掲げ達成を図る。

- ・基本目標Ⅰ 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまち
- ・基本目標Ⅱ 働く場を得て、ずっと住み続けたいまち
- ・基本目標Ⅲ 魅力と味力があふれるまち（ふるさと）
- ・基本目標Ⅳ 子育てのよろこびが見えるまち

【数値目標】

| 5-2の ①に掲げ る事業 | K P I | 現状値 (計画開始時点) | 目標値 (2024年度) | 達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標 |
|---------------------|---------------------------|-------------------|-------------------|-----------------------------|
| ア | 防災訓練参加者数 | 9,636人 | 10,000人 | 基本目標Ⅰ |
| | 多面的機能維持活動参加組織の認定 農用地面積 | 2,821ha | 2,851ha | |
| | 湛水被害区域 | 0 km ² | 3 km ² | |
| | 市道の施工延長 | 450m | 2,530m | |
| | 健康診査受診人数 | 1,049人 | 1,000人 | |
| | 各種審議会等女性委員登用率 | 19.4% | 30.0% | |
| | 地域づくり協議会において位置づけ | 5事業 | 10事業 | |

| | | | | |
|---|---|-----------|-----------|-------|
| | られた地域づくり事業で、若い世代が主体的に参画している事業数 | | | |
| | コミュニティバス利用者数 | 9.0万人 | 9.5万人 | |
| イ | 市の補助金【マイホーム取得事業、空き家活用促進事業(島外)、移住支援事業支援金】を活用した移住者数 | 60人/年 | 65人/年 | 基本目標Ⅱ |
| | 市内の婚姻者数 | 153件/年 | 150件/年 | |
| | おもいやりポイント流通量 | 201千円 | 1,480千円 | |
| | 福祉施設から一般就労への移行人数 ※2 | 0人 | 7人 | |
| | 企業等立地数 | 26社 | 33社 | |
| | 大学卒業後の市内就農・就職者数 | 6人/年 | 9人/年 | |
| | 創業者数 | 10人 | 15人 | |
| | 地域新電力事業会社のエネルギー地産地消率 | 0% | 29% | |
| | 総農家数(水田台帳登録) | 5,397戸 | 5,270戸 | |
| | 淡路瓦を使用し、屋根工事の補助金を受けた件数 | 80件 | 100件 | |
| | 淡路手延べ素麺生産数 | 117,198kg | 120,000kg | |
| | 年間新規就農者数(45歳未満) | 29人 | 30人 | |
| | 総合化事業計画認定数 | 15件 | 21件 | |
| | (市全体)鮮魚平均販売単価 | 654円/kg | 700円/kg | |
| ウ | 観光施設入込数 | 260万人 | 300万人 | 基本目標Ⅲ |
| | 大規模直売所売上高 | 5.29億円 | 7億円 | |
| | 国内暫定リスト入り ※1 | — | 暫定リスト入り | |
| | イベントでの渦潮PR回数 ※2 | 15回/年 | 20回/年 | |
| | 中学3年生が淡路人形浄瑠璃などの南あわじ市の伝統芸能の紹介を動画で世界に向けて発信した数 ※1 | — | 50回 | |

| | | | | |
|---|------------------------------|---------------|-----------------|-------|
| | ふるさとを愛する児童生徒の割合 | 30% | 80% | |
| | 市民講座等の参加・体験人数 | 1,163人 | 5,450人 | |
| | 淡路人形座入館者数 | 36,219人 | 40,000人 | |
| | 陸の港西淡における高速バス及びらん・らんバス利用者数 | 5.8万人 | 6.0万人 | |
| | ふるさと南あわじ応援寄付金額 ※2 | 485,236 千円 | 1,500,000 千円 | |
| エ | 出生数 | 283人 | 233人 | 基本目標Ⅳ |
| | 特別な支援を要する世帯への相談及び対応件数 | 229件 | 250件 | |
| | 公立保育所施設数 | 10施設 | 6施設 | |
| | 公立認定こども園施設数 | 1施設 | 5施設 | |
| | 利子補給事業を利用した保護者の延べ人数 | 62人 | 80人 | |
| | 食育チャレンジ事業(全小学校)の実施学年数 | 2学年 | 5学年 | |
| | 「学校に行くのが楽しい」と思う児童生徒の割合 | 56% | 90% | |
| | アフタースクール一般利用児童率 | 30% | 45% | |
| | 防災ジュニアリーダー養成数 | 40人 | 150人 | |
| | グリーンベルト設置延長 | 12,080m | 21,000m | |
| | システム運用により、業務の効率化が図られる市内小中学校数 | 5校 | 21校 | |

※1 2020年度までに実施した事業の効果検証に活用。

※2 2021年度以降に実施する事業の効果検証に活用。

5 地域再生を図るために行う事業

5-1 全体の概要

5-2のとおり。

5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

○ まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

① 事業の名称

南あわじ市地方創生プロジェクト

ア 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまちプロジェクト

イ 働く場を得て、ずっと住みたいまちプロジェクト

ウ 魅力と味力があふれるまち（ふるさと）プロジェクト

エ 子育てのよろこびが見えるまちプロジェクト

② 事業の内容

ア 地域ぐるみで支えあい、笑顔がたえないまちプロジェクト

子育て世代や若者、高齢者を含めた各世代が、まちづくりや防災などの地域活動への参加を通じて地域ぐるみで支えあい、地域の住民全てが安心して笑顔で暮らせるようなまちづくりをめざす。

【具体的な取組】

- ・地域づくりチャレンジ事業補助金
- ・コミュニティバス運行事業 等

イ 働く場を得て、ずっと住みたいまちプロジェクト

本市にずっと住みたいと思えるよう、働く場や住居の充実と情報提供する仕組みを整え、既存産業が活性化するとともに、地域資源を活かした新たな起業機会に恵まれたまちをめざす。

【具体的な取組】

- ・縁結び推進事業
- ・高齢者等元気活躍推進事業 等

ウ 魅力と味力があふれるまち（ふるさと）プロジェクト

自然や歴史・文化など古来より保有する「魅力」に加え、本地域の特

色である一次産業の持つ力を「味力」と位置づけ、「魅力」と「味力」の両面から新たな価値を創出し、観光・交流人口の増加による活気あふれるまちをめざす。

【具体的な取組】

- ・淡路島総合観光戦略推進プロジェクト
- ・渦潮世界遺産登録推進事業 等

エ 子育てのよろこびが見えるまちプロジェクト

子育て支援に関するさまざまな施策をさらに強化し、より一層子育て環境を充実させることで各家庭がゆとりをもって子育てできるまちをめざす。

【具体的な取組】

- ・子育て学習・支援センター事業
- ・アフタースクール事業 等

※なお、詳細は第2期南あわじ市まち・ひと・しごと創生総合戦略のとおり

③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

1,000,000千円（2020年度～2024年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（PDCAサイクル）

毎年度、6月頃に市役所内部において前年度事業の1次評価を行う。内部評価結果を元に8月頃に外部有識者で構成する「まち・ひと・しごと創生総合戦略検証委員会」において2次評価を行い、翌年度以降の取り組み方針に反映する。また、検証後は速やかに南あわじホームページ上で公表する。

⑥ 事業実施期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで

6 計画期間

2020年4月1日から2025年3月31日まで